

観光産業を中心とした地域活性化に関わる研究の現状

須 栗 大

1. はじめに
2. 地域活性化研究の分類
3. 地域経済分野の現状
4. 観光分野の現状
5. マーケティング分野
6. まとめ

1. はじめに

地域の多くの都市で高齢化の問題が叫ばれて久しいが、最近では消滅可能性都市というセンセーショナルな言葉とともに、地方都市の再生や活性化について政治、経済における喫緊の政策的な課題として注目されている。

そこで本研究ノートでは、観光産業を中心とした地域活性化における研究の現状をまとめることで、今後の地域活性化研究の一助とすることを目的とする。

2. 地域活性化研究の分類

地域活性化と言っても様々な分野で研究されており、その全てを網羅することはできないが、本稿では地域活性化研究を次のように分類する。

横軸に①地域経済的效果（観光収入の増加から所得や雇用の増加、税収入の増加を地域経済の活性化に結びつけようとするもの）と②まちづくり効果（地域の資源や文化の再発見から住民の意識の変化やコミュニティの再生や持続可能社会の実現を図ろうとするもの）を目的としたもので分類し、縦軸には主に調査対象とする分野として①地域経済分野②観光分野③マーケティング分野とする。

3. 地域経済分野の現状

地域経済分野の研究においては、地域経済学会の地域経済研究を中心に最近の現状を見てもみると、グローバル化、東日本大震災や人口減少社会への対応など社会的なトピックスへの対応などの研究のほか、さまざまな地域の取り組みを事例として取り上げ、主にその成功要因を分析、考察されている。

最近では「地域政策論の最前線」とした企画の中で、サステナビリティ、不均衡、コミュニティをキーワードに進化経済地理学や比較制度アプローチなどによる政策提言への適用を探る研究が紹介され、個々の事例にとどまらず地域活性化の方法論の確立に向けた研究も紹介されている。

また、地域の農林水産業が、食品加工から流通販売まで業務展開することで、付加価値をつけ加工賃や流通マージンを農業者自身が得ることを第6次産業（第1次+第2次+第3次）と呼び、農林水産業を活性化させる動きがあり、その事例についての研究も多く見られる。付加価値としては、レストラン経営やブランド化、消費者への直接販売などが主な事例としてあげられる。

さらに地域にある内部資源を中心としたクラスター分析などが行われその事例とともに検証が行われている。三橋（2007）はクラスター政策における地域とは行政区域等の明確な地理的境界や機能地域や結節地域（商圏や通勤圏など）といった地理的な地域の捉え方とも異なり、『個々の企業や研究者が研究開発や生産活動等を展開するにあたって、経営資源として優位な資源が存在し、関係者のネットワーク等が意識する空間的な広がりであるといえる』とし、多様な個の創出とともに、知恵のネットワークを継続的に創出する地域システムを有した地域づくりが重要であると指摘している。

また、中西他（2012）は、地域資源を活用した企業の発展プロセスについて『地域活性化には企業誘致を中心とした地域よりも地域資源活用企業が発展した地域の方が持続的で効果的な地域活性化が見られる』としている。

4. 観光分野の現状

観光分野の地域活性化研究においては、主にエコツーリズムに関する成功事例の分析、人材育成、国際化などの視点が主である。

エコツーリズムは2007年のエコツーリズム推進法の成立もあり、広く社会的にも認知されつつあり、エコツーリズムの理念でもある「環境保全、観光振興、地域振興」に関する研究は最近減少傾向にある。しかし、エコツーリズムを実践していくにあたり環境保全に主眼を置くエコツーリズムが主体となり、観光振興や地域振興に結びつきにくいという問題点も従来から指摘されている。金田他（2001）は従来のマストツーリズムと環境保全型エコツーリズムの間に共生型エコツーリズムという分類を設け、観光振興や地域振興と結びつきやすいマストツーリズムと持続可能な環境保全と社会に主に結びつくエコツーリズムを併せ持つ新しいツーリズムを提唱している。それは最近ニューツーリズムとして着地型の観光モデルとして

研究や自治体の取り組みとして行われている。ニューツーリズムはこれまで観光資源として埋もれていた地域資源を活用し、それに体験型、交流型の要素を取り入れた旅行形態である。エコツーリズムはその一部となり、その他にグリーンツーリズムやヘルスツーリズム、産業観光などがあり、地域の特性を生かした地域活性化につながるものと期待されている。

他の地域活性化との関連研究は地域の祭礼の継続性の研究や世界遺産化に伴う変化、人材育成やリーダーシップ論を中心に事例研究を積み重ねている印象である。

また、ここ数年の国内観光のゼロサムゲームにおける生き残り戦略から、円安や東京オリンピックの決定、外国人観光客の増加を背景としたより積極的なインバウンドについての研究へと変化がみられる。

5. マーケティング分野

マーケティング分野の地域活性化研究における中心的話題は地域ブランドの構築が中心となり研究がすすめられている。宮副(2012)は『「地域活性化のマーケティングモデル」とは、「地域資源」の着眼・編集により「地域価値」を形成し、それを発信していくことを地域活性化と捉える』とし、『地域の個々の資源の地域ブランド化(狭義)とともに、環境(空間)と文化(情報)の充実によって、地域そのものを地域ブランド化(広義)していく』ことを目的とし、「地域活性化のマーケティングモデル」を提唱している。橋川他(2010)も滋賀県長浜市の黒壁のまちづくりに関する内部資源の活用から始まり、それを外部市場からの需要の呼び込みに成功した結果であると分析し、この経済活性化を「長浜モデル」と名付け内部資源の再発見から価値創造につなげ、それをきっかけに外需の獲得を目指す一連の流れの重要性を主張している。

図表 1

	地域経済的効果	まちづくり効果
地域経済分野	第6次産業	地域政策論 内部資源を活用したクラスター分析 地域資源活用企業
観光分野	インバウンド観光 事例研究	エコツーリズム ニューツーリズム
マーケティング分野	地域ブランドの構築(狭義)	地域ブランドの構築(広義)

6. まとめ

このように、一言で地域活性化と言っても様々な分野で様々なアプローチによって行わ

れている。ここで触れた研究はその一端でしかないが、今後の地域活性化の研究を進めていく上で大変参考になるものばかりであった。

一つ目の視点として重要なのは地域の中にある資源の再発見と地域価値の形成である。今後経営学の資源ベース論と関連させながら地域活性化についての研究を進めていくことを考えている。

もう一つの視点として、持続的な地域活性化に必要な環境変化への適合やそのプロセスの重要性である。これは資源ベース論を発展させ、環境の変化に対して適合する能力をダイナミックケイパビリティ論と関連させながら進めていくことが可能であると考えられる。ケイパビリティには通常業務におけるオペレーショナルケイパビリティとオペレーショナルケイパビリティを環境変化に対応し、またはそれを先取りし変化させていく上位のケイパビリティであるダイナミックケイパビリティがあるとされる。地域の内部資源をオペレーショナルケイパビリティと捉え、ダイナミックケイパビリティとして地域のコミュニティやネットワークの役割を明らかにしていくことを考えている。

図表1の横軸で分類した地域経済的効果、まちづくり効果は二律背反的なものでなく双方の効果をより効果的に合わせることで持続的な地域活性化に向けて必要であると考えられる。そのために、今後の研究の方向性として、まず、資源ベース、ダイナミックケイパビリティの視点から地域活性化のモデル化を検討する。さらに中津川市の観光産業を中心に馬籠地域における市町村合併前と後の住民アンケート調査、各イベントのアンケート結果、などを利用しながらその有効性を検証し、今後の政策的な提言へとむすびつけていきたい。

参考文献

- ・ 齊藤修「6次産・農商工連携とフードチェーン」『フードシステム研究』第19巻2号 2012年
- ・ 三橋浩志「地域産業政策における「地域」概念の変化―クラスター政策を中心に―」『地域政策研究』（高崎経済大学地域政策学会）第9巻 第2・3合併号 2007年2月 229頁～239頁
- ・ 中西 穂高, 坂田 淳一, 鈴木 勝博, 細矢 淳「地域資源活用企業の発展プロセスに係る研究」『経営情報学会 全国研究発表大会要旨集 2012f(0)』2012年
- ・ 金田岩光, 近藤 健雄「エコツーリズム概念を活用した地域活性化に関する研究-I」『CELSS学会誌』第13巻2号 2001年3月
- ・ 国土交通省観光庁「ニューツーリズムの振興」(http://www.mlit.go.jp/kankocho/page05_000044.html) 2014/11/1アクセス
- ・ 宮副謙司「地域活性化の現状認識と今後の方向性」『経営情報学会 全国研究発表大会要旨集 2012f(0)』2012年
- ・ 橋川武郎, 篠崎恵美子『地域再生 あなたが主役だ』日本経済評論社 2010年
- ・ Barney, J.B. (1991), "Firm resources and sustainable competitive advantage", *Journal of management*, Vol.17, No.1.
- ・ Teece, David J. (2007), "Explicating dynamic capabilities : the nature and microfoundations of (sustainable) enterprise performance", *Strategic Management Journal*, Vol. 28 Issue 13.
- ・ Langlois, Richard N. and Paul L.Robertson [1992]:' Networks and Innovation in a

Modular System : Lesson from Microcomputer and Stereo Component Industries'. *Research Policy* 21 pp.297-313

- Langlois, Richard N. and Paul L.Robertson [1995]: *Firms, Markets and Economic Change : A Dynamic Theory of Business Institutions*. Routledge